

■川路高子 川路聖謨の妻となり、ユーモア溢れる留守日記を遺した。

かわじたかこ

げんり来航・1804= 江戸で、幕府の大工頭をつとめる幕臣大越喬久の次女に生まれる。

浮世床・・・1813=9歳：

水野忠成老中1818=14歳：親元を離れて、紀伊徳川家に奉公に上がって、姫に仕え、

膝栗毛終・・・1822=18歳：

・・・1826=22歳：姫が死去したため、退去し、

富嶽三十六景1831=27歳：

天保大飢饉始1833=29歳：この年、安芸浅野家に嫁いだ將軍徳川家斉の末娘に仕え、

大塩平八郎乱1837=33歳：

適塾オープン・1838=34歳：*当時幕府の勘定吟味役だった川路聖謨の後妻として嫁ぐ。

勸進帳初演・1840=36歳：

自らは初婚であったが、夫聖謨は4回目の結婚で、2男2女に加え、養父母・生母もいるという家庭で、しかも夫は出づっぱりという環境にあつて、夫が冗談半分に“ケロケロ”と名づけた持病を抱えながらも、家来や奉公人に慕われて家政を司り、子どもらには優しく、父母の面倒も良く見る一方、

阿部正弘首座1845=41歳：

徳川斉昭に用いられた前田夏蔭に師事し、幕末の短冊が現在なお売りに出るほど、文学的才能に定評があつて、斉昭に歌文を奉呈したりし、

北斎没・・・1849=45歳：

尊徳報徳論・1851=47歳：

奈良奉行から大坂町奉行に転じた夫が江戸に召喚されている間、先に奈良から大坂に移って夫の到着を待ちながら、細々と手紙でやりとりしたものを、夫に保存するように勧められ、

万次郎帰国・1852=48歳：

*「高子日記」として遺す。

ペリー来航・1853=49歳：

このやりとりはユーモアに溢れ、家族はもちろん、家来や奉公人までが読みあう、まさにホームドラマのような役割を果たしていたことも、生き生きと伝わって来る。

五ヶ国条約・1858=54歳：

桜田門外変・1860=56歳：

大政奉還・・・1867=63歳：

明治維新・・・1868=64歳：*「上総日記」。江戸開城で、夫がピストル自殺を図る際も、取り乱すことなく、

島津斉彬の母の伝記「竹の一葉」を著すなど、賢婦の名を辱めない晩年を送って、

明治6年政変 1873=69歳：

三つの内乱・1876=72歳：

明治14年政変1881=77歳：

秩父事件・・・1884=80歳：胃癌で、_没した。

吉川弘文館「遊芸文化と伝統」、